

諫早湾干拓推進住民協議会 山崎 繁喜会長



る潟土がたい積し、干陸く農作物被害もなかつた。防犯効果は大きい。二、三メートルも高くなっている。ひ門(内水の排水口)などから水が流れる海の水路の「みお筋」に濁土がたまり、排水不良になるため、しゅんせつ作業を続けてきた。一日一回干満があり、しゅんせつしてもすぐに濁土がたい積する。(この繰り)

水門開放で背後地崩壊

福岡、佐賀、熊本
の三県漁連は諫早湾干拓がノリ不
作の原因として工
事の中止と排水門の常時
開放を訴えているが、干拓
が原因とは思わない。
昨年後半は好天が続き、
河川から養分が流入しな
かったため、ノリ被害が
出たと思う。昔、ノリ養
殖に携わったことがある

が、ノリ養殖は気候に左
右されやすく、難しさも
分かっていて。過去の経
験から、正月前には、被
害が出るのではないかと
予想していた。
今回の原因には福岡県
大牟田市沖の海底陥没や
干拓を原因と主張する漁
民たちには憤りを感じ
返した。
潮受け堤防が完成し、
諫早湾の背後地の住民は
高くなることも、自動
の大型排水機施設などが
必要だ。漁業者にも背後
地の住民にも生きる権利
がある。いずれにしても
一時的な施策ではなく、
共生できるような対策を
講じてほしい。

対論 諫早湾干拓

《上

有明海のノリ不作問題は、諫早湾干拓事
業との因果関係が指摘されている。しかし、
同事業の現場を抱える県内では、開放の是非
について意見が分かれている。関係者に
それぞれの意見を聞いた。

一九九七年に諫早湾が
閉め切られた後、タイラ
ギが消滅するなど、有明
海の漁業環境は大変厳し
い状況になった。閉め切
りの前と比べると、その
後の四年間は、水揚げが
極端に減っている。タイ
ラギのほか、シバ
エビも全然取れな
くなった。五月末
から七月にかけて
産卵のために上ってきて
いたアカクチも今は全然
取れない。主力のカニも
九七年に七万六千匹あつ
た水揚げが、二〇〇〇年
にはわずか二万二千匹に
激減した。
開発がなされてきたが、
佐賀空港や熊本新港の
工事の時、まだ水揚げ
があった。近年、魚が取
れなくなった原因は、
諫早湾の「モノチン」の
せいとしか考えられない。
だから排水門を開
けて元の干潟を再生して
ほしい。
水門を開けると、漁場
が荒れるという指摘があ
る。確かに潮流の速さが
よくなると思う。どうせ
開けるなら、二つ合わせ
て二百五十坪の水門だけ
速い潮の流れなら赤潮の
発生は抑えられるのでは
ないか。それより、調整
池に海水が入ることで干
潟が戻り、今より水質は
よくなると思う。どうせ
開けるなら、二つ合わせ
て二百五十坪の水門だけ

堤防を切り干潟再生を

より、堤防の中央を二
三メートル切って開けてほ
しい。そうすればへドロの
拡散もない。
首相や農相が排水門を
開けて調査する可能性に
も言及していることは、
一歩前進だ。漁民は明日
食べる米さえ困っている。
調査に二、三年かかる
らぬかと、漁民は生活
がたい積する。(この繰り)

有明町漁協 松本 正明組合長



われわれは魚が取れさ
えすれば、干拓工事も問
題視しない。今、魚が採
れなくなったから騒いで
いるのだ。

問題は選挙のため
の党利党略に使わ
れているからだ。漁民
は明日の生活にも困っ
ているのだから、党を超
えて、救済に最善の方
法を探してほしい。中
には、手厚い融資制度
を望む漁民もいる。